

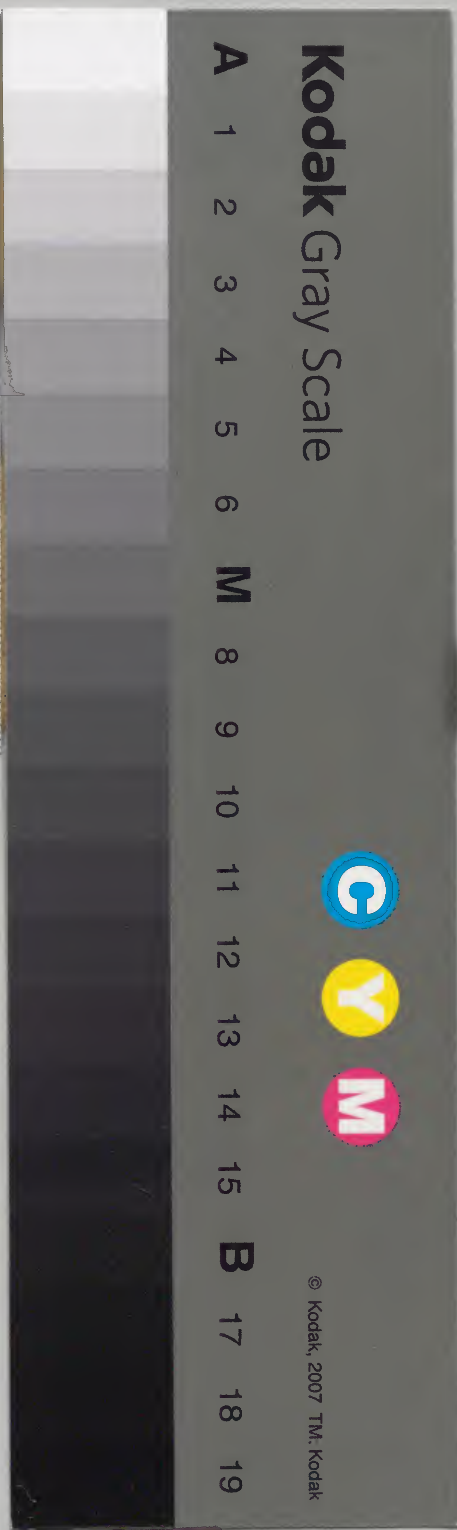
武家勸懲記

卷二十八

内閣文庫	
番號	和 34687
冊數	37 ( 16 )
函號	157 343

内閣文庫			
五	三	和	
七	四	書	
函	六		
一	八		
七	七		
架	冊	號	類

冊七





武家勸懲記卷第十八目錄

有馬左衛門佐藤原康純

板倉隱岐守源重常

水谷左京亮源勝宗

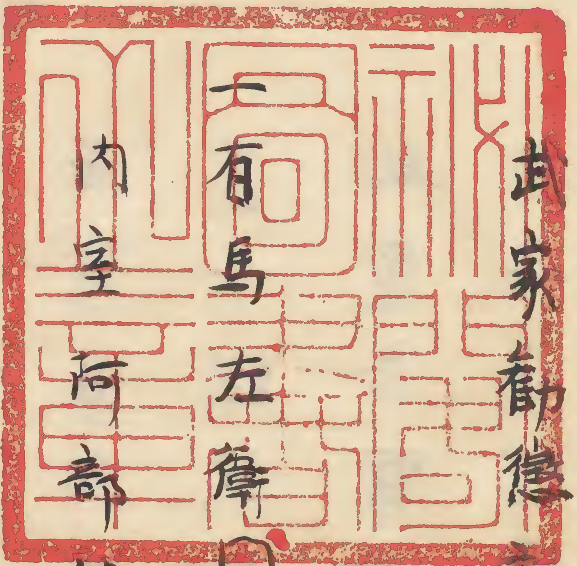
本多飛騨守藤原重照

青山大膳亮菅原幸利

小出備前守藤原吉之



武家勸徳記 第十八



内室 河部 権广守姉

有馬左衛門 佐藤原康純

從五位下 卯六十一

嫡子 周防守 永純 二可 置部内膳 正堀也

本国 肥前生国 日向 故左衛門 佐直純

ノ男 修理大夫 正純之孫也 祖父 正純

ヨリ 以来 御味方 二 候 三 忠 勤 了 効 之



或ハ大坂御陣ノ御士卒ヲ催ニ奈向  
之上意ヲ窺ヒ後年嶋原一揆ノ御モ  
彼地ニ奈之軍功ヲ尽ス代々御勸賞  
之家ナリ

居城日向ノ縣本知五万三千石新地  
運上課役等都合七万石余有米菘生  
松氏ニ亘之カラス年貢所納四ツヨ  
リ六ツマテ家中へ四ツ在江戸ノ年

百石ニ付四人扶持外ニ撥合有国家  
仕置吉家士凡俗不亘地ニ膏腴莫紫  
薪多材木等有土地下城本ハ国ノ東  
北辺遠国ナル故不自申也父直純ノ  
時代ヨリ以前手前不成今ハ内證吉  
ト同ユニ男伊織ヲ平置市十郎へ千  
石ノ領ヲ付テ粮鬮トスト云々  
家左 同氏 山口



康純文武ヲ少々学ヒ行跡和順ナリ  
羨兒女ヲ愛シ遊舞ヲ好ムトイヘ凡  
甚之カラス家民ヲ敢テ憐ムニモア  
ラス又貪リテ十之勤候ヲ不怠世間  
ノ出合ヨシ

愚評諷日夫主將トシテ文武ヲ嗜  
行跡和順ナルヲ最モ可ヤ徳内ニ  
有トキニハ外ニ不顯トモ氣質淳

直ナルユヘニ一所行ヲノツカラ  
順ニ敢テ家民ヲ憐ムニモアラス  
又貪リテ十之トカヤ元来心意正  
ニキ人ハ法ニ不背羨ヲ守ルニ依  
テ偏愛ノ氣ナケレハ一向アハレ  
ムトハ見ユヘカラス貪リテキハ  
憐ミアレハナリ或ハ羨少人ヲ愛  
シ又遊舞ヲ好マルハ尤モアル



へ之前段ニモ云カ如ク也公役ヲ  
不怠ニテ勤メラルハ、ハ勞一ノ善  
や世間ノ出合ニケキトモ忠義ノ  
余リ十ルヘニ世將心ニ實徳備ル  
故ニ外又和順ニシテ行跡ニ不義  
ナク自然ト譽レアルカ父直純ノ  
時ヨリ内證吉ト沙汰ス世上ノヤ  
ウスヲ窺ヒ見ルニ自己ノ利根ニ

ニ勝テ何ノ差別ヲモワキマヘス  
而モ愚案ニメ余明ヲ表ニ立テ心  
ニ應セラル、事ニ於テハ公用ヲ  
モヲコタリ究メテ殊ソカニシテ  
人ノ嘲誹ヲモカヘリミスハツス  
マニキ所ヲシフリ止テ利潤メキ  
又好ムトコロニ至リテハ人ノ諫  
メ止ルトイヘ氏許容セス種々ノ



理弁ヲ付テ如何ナル費ヘ大ナル  
後ヲモ是ヲ為届クルト見ヘタリ  
此等ノ将ハ疎ニテ不諫自己ノ俦  
タルニ依テ日々ニ悪行超過ニテ  
次第ニ内證衰ヘ為方ナクテ家士  
ヲ奪ヒ民間ヲ貪シ氏猶ツクハヒ  
ニ不足ニ公侯ノ怠リヒソメハ後  
ハ禍ト成テ国家ニハナシ身亡ス

一古例ナキニモアラス然ルニ  
康純ヨク理ニ通ニ種和ヲ旨トセ  
ラル、故ニ家士近ツキ易ク諫言  
ヲ入テ内外ヲ整ヘ計ルニ依テ少  
シモ家民ヲ苦シメラル、沙汰ナ  
シトイヘ凡自然ト内證モヨク成  
ルヘシ君臣トモニ合体スルトキ  
ニハ国家無為ニシテ長久スル也



縦ハ数多ノ大國ヲ領ストモ臣根  
三民疎ムトキハ孤独マテ夫レ  
同ニ世時道ヲ知テ臣ヲ仕ヒ臣又  
是懷キ忠功ヲ以テ為スナラニ最  
モ善將ト云ニ

一板倉隱岐守源重常

從五位下  
和州三友

内室戸田采女正女

敘巴九曜

嫡子

本國三河生國駿河河波守重胤ノ男  
周防守重宗ノ孫也防州ノ父伊賀守  
勝重ハ天下御草創ノ初メヨリ所々  
ニ於テ忠勤ヲ尽就中京都ハ諸司代  
ヲ被仰付大坂御陣ノ前後肺肝ヲ碎



キテ計畧ヲ廻シ又ル其功拔群十リ  
周防守重宗又此役後ヲ相續シテ司  
ルガレハ二代氏ニ憲法ヲ守リ奸曲  
倭邪ヲ去テ璋非ヲ糺ス諸沙汰ノ揆  
断今ニ至テ是ヲ称羨ス阿波守重卿  
モ寺社ノ奉行職ニ補セラレテ是又  
猶モ智柔明ニシテ聊カ嘲詠ノ擲キ  
十ク順路ヲ專ト執行フ死去ノアト

重常相續ス初メ下国関宿ヲ領ス今  
ハ勢列

居城勢列葦山本知五万石五千石内  
一戸石ハ伯父伊与守重形ニ分与フ  
残四万五千石新地運上謀役木都合  
六万七千石余有米荒生松氏ニ吉ニ  
年貢所納五ツヨリ七ツマテ梓ニ六  
ツ奈家中ハ四ツ在江戸ノ年百石ニ



付五人扶持外ニ授合有惣テ家中宛  
行吉家士富士民豊也家ノ凡俗宜ニ  
故ニ諸家浪人此家ヲ望ム地ニ禽獸  
柴薪有リ土地上海本国ノ北西物毎  
自由ナリ家差ニ同氏大石  
重常文武ヲ学ヒ仁義ヲ正シ不俊不  
怠行跡静カニテ実体ナリ家民ヲ  
檢育スルヲ厚トス

愚評哉日允將トニテハ心ヲ正シ  
身ヲ治メ行跡不遠ヲ以テ本トス  
重常文武ヲ学ヒ道ニ至ラレ故  
仁義ヲ旨トシ不俊不怠而モ家民  
ヲ哀憐アルヲ仁將ト云フヘシ情  
考ヘ見ルニ此家如何ナレ善徳ノ  
門葉ナルヤ勝重重宗如モ同姓故  
内膳重昌ハ往昔家康公秀忠云



家光公三公ノ上意ニ叶ヒ君邊ニ  
候ニテ忠勤ヲ勵之所ニ於テ成  
功多ク就中肥前嶋原一揆ノ時御  
目代ヲ蒙リ彼地ニ到テ忠死ヲ遂  
末代ニ名ヲ残ス其嫡内膳重矩初  
メ大坂御城巻ヲ相勤メ御旗本ニ  
被召嵩執事ノ數ニ入り又京都ニ  
上テ暫ク取司代ヲ掌テ畿内遠境

ニ至ルマテ其邪僻ヲ正シ順道ニ  
執行ヒ沙汰毎ニ貴賤親疎ヲワカ  
ヌス其理非ニ應ニテ揆断ヲ加フ  
権威ヲ振フトイヘ氏曾テ枉惑ノ  
儀ニハアラス道徳備レル故市人  
自然ト尊敬セ之取ヤ措哉今ハ早  
名譽ハカリ残ルヲ婦子石見守  
重道并ニ同姓市正重太筑後守重



直伊与守事形等彼是一類門葉ノ  
輩一人トシテ愚カナルハ十之人  
能知レル取ナリサレハ重常心意  
行跡正ニキ故ニ父祖代々ノ名譽  
ヲ考ヘ連又是追孝ト云其身ノ譽  
レナリ自今以後猶心ヲ不變善道  
ニ赴キ国家ヲ治メ忠義ヲ尽シ  
ニ身ヲ委子ラレハ万代不易ノ名

家タルヘニ案スルニ是只清淨至  
極ノ天質ヲ受得テ出生アルカ諸  
将心ヲ付テ彼一家ノ心意行跡ヲ  
考ヘ真似心身治メラルヘニ世上  
廣ニトイヘ凡加様ノ善人揃ハ神  
変トヤ云ニ奇妙トヤセニ壹時諸  
将ノ鑑タルヘニ



一水谷左京亮源勝宗

從五位下  
卯五十三才

内室青山大膳亮妹

紋左巴

嫡子

本国常陸生国武列伊勢守勝隆ノ嫡

男也此家傳未詳旧領常列下館

居城備中ノ川松山本知五万石内二

千石倉房新右衛門二方ノ新地内中

運上課役等都合六万三千石余有リ



米荒生私民ニ中ノ上年貢所納五ツ  
ヨリ七ツマテ家中へ四ツ成在江戸  
ノ年秋持十ニ授合人有扶持ノ余ニ  
アナル江戸諸吉門ノ出入不自由ニ  
之テ難儀ス父勝隆ノ時ヨリハ少ニ  
エルヤカナリ地ニ禽獸魚菜薪アリ  
国家ノ仕置相ニ、ナシ氏家民困死  
スルニハアラス地中ノ上城本国ノ

少東海辺南ニ有川舟入自由叶フ  
家左 鷹見 高垣 北嶋 平瀬  
勝宗文道ヲ之ラス武道ヲ嗜ム短慮  
ニ之テ恣有以前ハ年討ヲ好ニ其殺  
罰ニケカリキ今ハ止タリ是鶴見内  
蔵助力諫言ニ依テナリト云々  
愚評談云武道ヲ嗜ムヲ家業タリ  
最可也短慮ナルニ於テハ必ス恣



有へ之是人主ニハ悪ニニスル取  
ナリ一片ハ短慮ニ依テ獲得利害  
ヲモ忘レ時過テハ甚夕悔ニ有へ  
語ニ語ニ恐一時氣免百日之憂而勿  
以悪小為小為勿以善小不為也  
武道ヲ嗜マルトハ何ヲ以  
テ云ヤ武ト書ル文字ノ訓讀ニ泥  
シ一向ケ十ケヲ振廻人ヲ切害ス

ルヲ以テ武將ノ行跡トハ云へカ  
ラス最罪科ニキハマレルヲモ宥  
ムルハ人主ノ智謀ナリ世將恣リ  
有トナレハ當坐ノ不意ニ依テ指  
ケ時ノ氣ヲ恐ヒカ子テ是非ナク  
殺害セラルカ凡ソ常ノ人々ニ  
於テ賢愚ノ差別割臆邪正ノ替リ  
有テ上下氏ニ五臟ヲ具ニ是同キ



人体タリ君ト成臣ト成ハ貪福也  
一且ノ権威ニツノリニタリニ殺  
罰ヲナストモ畢竟天命アヤウモ  
縦大樹ノ貴族タレモ不義邪行ヲ  
ハ宥メラレス国家ノ御政道私ナ  
キ所ヤ是万人ノ苦ニムヲ救ヒ玉  
フニ依テ如斯况ヤ其外ノ人ヲヤ  
考ヘテ知ヘシ傳ヘ同新田義貞小

山田高家カ小托ヲ宥メテ戰場ノ  
大難ヲ遁ル、古例猶繁多ヤ夫ハ  
義國徃昔ノ夏今静證ノ御世ニ於  
テモ近來マテ僅ノ息義或ハ一言  
ノ忝キニ依テ妻子ヲフリ捨テ百  
年ノ身ヲ不惜追腹ヲ切リ息ヲ報  
之其實之氣備ハルナリ然レハ今  
以テ義貞如キノ將ノ下ニハ小山



田ニ等キ、美士十キニモアラヌ  
家人タレハトテ、無理ニ殺害、国家  
亡失ノ基ヒタラシ、去テカウ、又主  
將トシテ、余リニ和ラカ、過テ一白  
慈悲ノ心ヲ以テ、罰スヘキヲ害セ  
サレハ、仕置ユルカセニシテハ、將  
ノ威、恠ク、国家ヲタヤカナラヌ、改  
ニ罰スヘキヲ殺ストキニハ、難無

ニトイヘ、氏、奪リ有ハ、必ス殺スマ  
ニキラ、害スル方々ニ、落付キ、十二  
ソ、鶴見内蔵、諫言ヲナシテ止タル  
トナレハ、珍重マコトニ、忠臣タリ  
トテモ、ノコトニ世ニ、因ヘサル内  
異、諫セハ、ソシリ有マニサレトモ  
主君タリ、臣タルハ、何レノ道モ、早  
速ニハ、完成難キニ、依テ、延引、是非



二 不及珠諫々々之口力寸儿様二  
心得へ之臣々儿ノ要道也

一本多 飛彈守藤原重照 從五位下 卯四十三才

内室松平故越前守女 紋立葵

偏佐左衛門 松平刑部大浦塔

本国三河生国武列淡路守重能ノ男

故飛彈守玄照之孫也玄照ノ父故佐

左衛門尉重次ハ家康公ノ御近習ニ

候之度々ノ忠切不違記然儿ニ

黄門秀康公大圖秀吉ノ親君卜之テ



御上洛ノ時息千代ヲ付属ス後飛騨  
守玄照卜弓之勢前ノ長臣タリ之後  
年忠直御豊後へ左近ノ御領十五  
石ヲ御連枝へ被下萬五石ヲ被下  
御直ニ飯儿卜弓之有増如州委ク不  
考之

居城勢前ノ内丸置本知五万石内伯  
父大膳同丹下ニ三千石宛有与新地

運上謀役木都合八万三千石余有リ  
米売生松氏ニ中幸貢所納五ツ六ツ  
梓之五ツ奈家中へ四ツ在江戸ノ幸  
扶持有撥合ヲ下ス江戸国共ニ心易  
ク家士大形手作ヲ十之其外年廻之  
千内證置リ且又綺羅ヲセヌ他ニカ  
ハハラガル家也地ニ禽獸魚菜薪木  
アリ土地中城本國ノ北西海辺近ニ



家左 寺田

重熙文武兩道氏ニ廿ノ之ニ不學佛道  
ヲ好ミ僧侶ヲ寵愛ス行跡スナラニ  
之ヲ譽テナク詆リテナク之義少人ヲ  
愛ストナクヤ

愚評談曰文武ノ道ヲ不學佛道計  
ヲ好ム豈是トスヘカラス文ハ聖  
賢ノ正教武ハ軍理ノ法ナレハ武

特ト之ヲ世道ニ疎キトキニハ大  
ニ非羨タリナレ氏佛道ヲ學ハル  
、豈惡トニハ非ス古昔名將智士  
專ラ佛理ヲ圖テ身ヲ正シ心ヲ明  
メ之例アリナレハ爰ニ儒道ヨリ  
ハ佛道ヲ謗リ佛道ヨリハ又儒道  
ヲ嘲リ争フ豈干今不絶偏ニ儒ヲ  
學ヒ佛教ニ泥ミ互ニ其奧伎ヲ不



知之テハ廿七有又ハ之佛道ヨリ  
ハ儒ハ世ノ邪ヤ現世安ホノ求真  
実ノ道理ヲ不知名利ニ走ラ逆ヒ  
心ヤト諱ル又儒者ヨリハ出家ハ  
家ヲ去テ孝道ニ背キ子孫ヲ絶シ  
テ遊民トナル是實ハノ人ナレハ  
五常ニハツル、ト同前ニテ窮ル  
畢竟儒佛トモニ善道ニ通ニテ人

ヲ救ハ、善也悪行ヲ以テ人ヲハ  
カルハ要タリ何レニ於テモ其道  
ニ不至ニテハ邪正ノ差別ハ知ヘ  
カラス今重照ヲ評スル所ハ家業  
ヲフリステ、外ノ道ヲ学フテ以  
テ越タリ然レハ佞奸邪曲ノ意地  
ナク身ヲ治メ能家民ヲ接育スレ  
ハコソ国家無為ナリ是佛法ノ真



実ヲキハアキラメラレ之故ニヤ  
譽レモナク誹リモナキハ中道ニ  
至ル中ハ物ノカタヨラテトコ  
口ナレハ偏氣ヲ去ツテ順路ヲ肯  
トセラル、ヤ最モ善将タリマタ  
義少人ヲ愛スル、前後ニ記スカ  
コトニハ十八夕ニカラスハ不苦  
犯ノミタリカハニキニハマテル

へ之又曰重照ハ近年ニ死去佐左  
衛門今又飛彈守ト号スルナリ

此は後方事也凡そ平城ノ事ニ  
関スル事ハ皆上ノ事ニ付テハ  
世ノ不測ノ事也天下ノ事ハ



*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

一 青山大膳亮菅原幸利

從五位下  
卯五十九

内室加藤内藏助妹

經九曜又枝苗

嫡子大藏大輔幸賀八井上相摸守塔

本国三列生国武列故大藏大輔幸成

男常助忠成ノ孫ヤ父幸成ハ伯耆

守忠俊ノ弟ヤ然儿ニ幸成ニ台徳院

殿御近習ニ候ニ上意ニ叶ヒ出凱

也ニメ別テ領知テ賜リ天下評定衆



ノ数ニ入ルト十リ  
居城撰列 尼崎本知五万石五千石内  
三千石 幸利弟丹後守二千石 同信濃  
守千石 同藤藏ニ配方之 皆御旗本ニ  
伺候之 諸番ノ取ヲ司トル 新地運上  
謀役ホ外ニ二万石余米 菖生松氏ニ  
吉年貢所納六万ヨリ八万余マテ 梓  
之六万七方 家中へ四万 在江戸ノ年

百石ニ付五人 扶持外ニ 摸合有江戸  
諸吉国役多之 家士後リ物ノリツハ  
ヲ好ミ 羨慕ヲ尽ミ 十年前十ヲスル  
家ノ凡トテ 一流相形ヲ立ル 地ニ畜  
獸魚柴薪多之 土地上古 城本国ノ西  
南東ニ海有万 夏自由叶フ 家老  
貴田 鈴木 朝比奈  
幸利文武ヲ不学武勇ヲ甚夕好ニ 剛



強ヲ表トシ武藝ヲ父ニ十ニ馬ヲス  
ク邪曲ニ三テ家民ヲ奪ヒ貪ルト固  
ニ以前ハ諸士匹夫ノ差別十ク人ヲ  
殺害セシニ依テ家民凡ニ踈ニ果シ  
トカヤ今ハ廿十ニト云々

愚評幾云人善ニハ近付カ父ク惡  
ニハヨリ安シ國郡ヲ治ル將或ハ  
百千ノ取ヲスル人ハ聊カ違有テ

モ政道立カ父之今幸利曾テ善行  
ヲ十サス人主ノ法ニ遠フ凡ノ主  
將ハ国家ノ父母ノ如シ然ルニ憐  
愍ヲハ十サス却テ奪ヒ貪リ家民  
イウクニカ立ニ是只武勇一偏ノ  
効ニ有人タリ但シ人ヲ殺罰スル  
ニハ差別有ヘシ科有者ヲ害スル  
ニハ理ノ前ナリ罪ナキヲハニタ



リニ罰スヘカラス孟子曰以仁道  
使民金不勞不怨以半道殺民金死  
不恨世心ヲ以テ知ヘ之民ヲ安セ  
ニトテ道理ヲ以テ使フトキハ苦  
勞スレ民恨ムルヲ十之是私ニ使  
フニアラス耕作家誠ヲセヨトテ  
勵スニ依テ也亦殺テル、復有テ  
モ其罪ヲ懲テ殺ス故ニ恨ニ十

之トカヤ世將家民トモニ疎ニ果  
ルトナレハ至理非道ナルニヤ今  
ハ廿十ニト記セハ先非ヲ悔ル心  
有力珍重慎ニテ善行ナラシメ玉  
ヘ武藝ヲ好ミ馬スカル、度最家  
業ナレハ專ラ心掛ラルヘニナレ  
氏一備モ司ル將一人ノハ父ヲキ  
ヲ以テ本意トハセス是ホノ評前



後ニ多キ故畧也之ム心ヲ付テ考  
ヘテルヘ之

一 小出備前守藤原吉之

從五位下

内室内藤左京亮女

紋 劔梅 鉢

婦子

本国尾列生国武列修理亮吉重ノ婦

男大和守吉英ノ孫

居城但馬ノ内出石本知五万三千石

父吉重家督ノ前倉茅宮内ニ二千石

同左近ニ千石余与テ又吉之相續ノ



時新田千五百石并主殿ニ配布不新  
地運上課役掛物等外ニ一カ石余有  
米売生私氏ニ中辛貢取納六ツ二三  
令家中へ大羊地方ヲ渡ス故ニ辛ニ  
依テ不同アリ近年折繞キ領取水入  
不作ニテ難幾不在江戸ノ辛人有扶  
持并ニ摸合有江戸国民ニ心安之地  
ニ禽獸莫柴薪有リ周北海道北ニ

リ 家老 同氏 堀

吉之文武ヲ学ヒ和哥ヲ嗜ニ行跡悠  
然トシテ孝礼ヲ專ラトス祖父和列  
ノ代ヨリ今ニ至テ十年前不成家士ハ  
富メリ養少人ヲ愛ス

愚評談云文武ヲ学ヒ和歌ヲ詠就  
中孝礼ヲ專ラトセラル、丁主将  
ノ法ニシテ人々ノ道ナリ厚ク



学ヲ人ハ環ヲ明ムル故自ヲ行跡  
ニアヤマリテ祖父吉英父吉重  
世ニ隱チキ学者ニテ心行トモニ  
正之ク家民ヲ憐ミ情ヲカ、リキ  
不奢不貪無欲ノ人タリニト同ユ  
凡仁義ノ心ヲ養フニハ欲スクナ  
キヲ善トス仁者ハ不富不仁者ハ  
富ト云ヘリサレハトテ無欲ナル

モ是トスヘカラス仁心有人ハ後  
ノ勲ヘモナク人ノ為ニハ自己ヲ  
忘ル、所有程ヨキ員ヲ口キマヘ  
知ヘキテ世數代凡ニ貧後アリ凡  
不見然レハ何ヲ以テ内證不如意  
ナル中ト不害スル次而雜談ヲ交  
工情世間ヲ考ヘ計ルニ去ル寛永  
ノ比マテハ諸国ニ於テ田島能実



ノリ五穀相熟スル故ニヤト下民  
貢物ヲミブラス况ヤ困窮スル沙  
汰モ十ク農業ニ進ニテ不怠民間  
常ニ豊カニニテ年ニ依テ自国ハ  
少々不作ストイヘ尺米売多キカ  
故ニ而モ下直ナシハ買調ヘテモ  
貢納物不滞匹民氏ニ賑ヒ色メケ  
リトナリサレハ其時代タトヘハ

百石取ノ士方限金子十五兩程ニ  
ハ不過然レ尺可賣物ニツレテ  
潤沃ニニテ用所タヤスク都鄙遠  
境安泰タリニニ近年ニ至リ国々  
大ニ旱水ノ費ニケク動スレハ田  
島不作ニテ飢饉ニ及テ尤代官吏  
士等ハ憲法ヲ以テ免札ヲ下スト  
イヘ尺累年ノ衰弊ニツカレテ出



三ツクナフヘキ米売不足手前ヒ  
ツハタノ余り妻子ヲ佑却之テモ  
売物高直ナレハ十カ一ニモ不及  
終ニハ孤独ノ身ト成テ朝夕土壇  
ニ伏テ飢寒ヲ苦ニニ心意狂惑ナ  
ラナレ氏農具ヲ炉中ニ燒テ寒難  
ヲ凌キ種米ヲ糶水トナシニ差當  
ル飢ヲ扱ルノニナレハ為方ナク

後ハ相傳ノ田畠ヲモ賣捨テ路死  
ニ立テ袖乞ヲスル類甚多ニ抑毎  
歲ノ早枯水預如何ナレ故カ唯天  
運ノ悖逆ニヨレリト人毎ニ沙汰  
スル莫ナリ愚哉非哉豈常位不易  
ノ天運ナ代トテモ妻スヘキヤ是  
頗ル人中ノ為早水ナリ如何ト云  
ニ今御代静謐ニニテ諸將弓ヲ袋



二之 劔ヲ箱ニ納メ父祖粉骨ノ成  
功ニ依テ子孫皆大録ニ坐ニテ閑  
暇余リ無量ノ奢リヲ極メ羨慕ヲ  
十ス如何程ノ大領ヲ保ツト云凡  
費スニ尽サレヘケニヤ况ヤ一國  
一城ノ主將大概ツモリアレハ驕  
奢寔メテ後内證不足セハ權ヲカ  
サニキ或ハ私用ノ拠ナキヲ去立

民間ヲ之ヘタクヘキヨリ外ハ非  
ス左モ貪リ取テ一旦利潤ヲウレ  
ヤウナレ凡メイ、ハ鳥ニ等ニク  
家民困寔敗モセハ又奪ヒ取ルヘ  
キ候リナク且夕無道ノ行ヒニ心  
ヲナヤマニ工夫ニテ沼川ヲセキ  
尚堤ヲ築切百姓ヲ仕付テ新田ヲ  
荒之眼前徳用ヲ現ストイヘトモ



雨降り水増テハ必堤ヲ押切却テ  
本田皇マテ水入流取トナシ又旱  
ノ年ハ水ヲヤラナク日比支度  
スル取ノ池沼マテモ新田皇ニ築  
堤テ要用ノ便リヲ失フ然レハ是  
天ノ科ニアラニヤ皆人ノ貪ル  
心ヨリ為ニムル旱水損也ナリニ  
依テ天下ノ御政道ニ御領所ノ方

ニ於テ適々地方ヲ見立テ達スト  
イハトモ千變万化ヲ考ヘラレテ  
一ヲ十ナシメ或ハ給主等新田皇  
ヲ弑シ高ニ結ニテ御役差ヲ勤メ  
ニト競望ノ族ヲ多シト去ヘ凡右  
ノ遠慮ヲ以テ御許容カク猶近幸  
遠國波濤ニ至ルマテ御檢使ヲ廻  
ナシ地形ノヤラヌ且ハ民間ノ安



否ヲ御糺明有テ哀憐ヲ加ヘラ  
如世ノ道理ヲ能ク勘ヘ知ヘニ  
レハ領主地取以下當時直改ヨ  
米菴ヲ取細ニ大方ノ金銀ヲ握テ  
工ミヲ含ト去ヘ凡万物是ニツシ  
テ高直ナレハ押ニキル手用ク同  
ノヲソキ程ニ拂底ニテ難羨ス彼  
ニ付是ニ付テ聖賢ノ大道ヲ以テ

國家ヲ計リ知スニハ獅子身ノ虫  
ニ等ク自己ノ害ナルヘニ然ルニ  
世上皆ハ木高直ニナリテ考ヘテ  
ハ地方ヲ蔵米ニ替切米ヲ金ニカ  
ヘテ宛行フ茲ニ世家ノ給方ハ代  
々地方ヲ守フル故アタヒ能ニツ  
レテ家士ハ内證ヨニトイヘトモ  
昔之ハ十年前不如意ナリトカヤ臣



又コ、ロアルヘニ上安泰ナラス  
ニハ下如何リ其家禄ヲイタ、カ  
ニヤ子カハクハ衆議一同ニテ世  
間ノ並ニマカセテ四ツ成リテ請  
得テ其奈ハ返知スヘキ、カ、カ、  
ルニ於テハ主従トモニ日出度カ  
ルヘシ荀子ニ曰君ハ船ヤ臣ハ水  
也水則載船水則覆船ト云々世心

ヲ以テ家従等ハカリ知ヘシ万般  
筆端ニ不及



Faint, illegible handwritten text in vertical columns on the right page.





